

カ、ル傾向ハ植物バカリデナク博物ノ各方面ニモ認メラレル、假令ヘバ宇井縫藏氏ノ『紀州魚譜』ノ如キモ其一例デアルガ斯クノ如ク民間學ヲ好ムノ風習ハ學問普及ノ見地カラノミナラズ人心向上ノタメニモ甚ダ有效デアツテ大イニ獎勵シナケレバナラナイト信ズル

勿論専門家トカ官衙トカモ立派ナモノヲ刊行シテ世ヲ裨益シツ、アルノ事實ハ更ニ多イコトハ言フ迄モナイガ其レハ今余ノ言ハントスル所デハナイ余ハ更ニ各州ニ斯種篤志ノ人ガ一人モ多ク現レ先ヅ各地ノ小「フローラ」ヲ完成シ之ヲ小ニシテハ其一區域ニ於ケル斯道ノ爲ニ盡シ之ヲ大ニシテハ他日大日本「フローラ」ノ完成促進ノ因ヲナスニ至ランコトヲ希フノデアル

雷ニ顯花植物ノミデハナイ故小松崎三枝氏ノ『愛媛縣產菌類目錄』ノ如ク植物界ノ他ノ部分ニ於テモ同一ノ舉ノ一日モ速ニ且ツ一冊モ多ク世ニ出デンコトハ吾人ノ鶴首シテ期待スルコロデアル、終リニ一言シテオクガカ、ル刊行物ハ公私ニ不拘其頒布ノ方法宜シキヲ得テ同好ノ士ハ勿論苟モ之ヲ利用スルモノ、手ニ容易ニ行キ渡ル様ニナラナケレバナラナイ其爲メニハ有資格者ニノミ頒タレテ無名ノ特志家ハ之レヲ手ニスルコトモ出來ナイ様ナ舊來ノ方法ハ大イニ考フベキコトデアル、操り返シテ言フガ既ニ發表サレタ「フローラ」ヲ有セル各地ノ諸君ハ益々其改正版ヲ續々ト出サル、コトニ盡力サルト共ニ未成ノ土地ノ君子ハ緊禪一番此有意義ノ事業ニ一日モ早ク着手セラレンコトヲ希望スル次第デアル

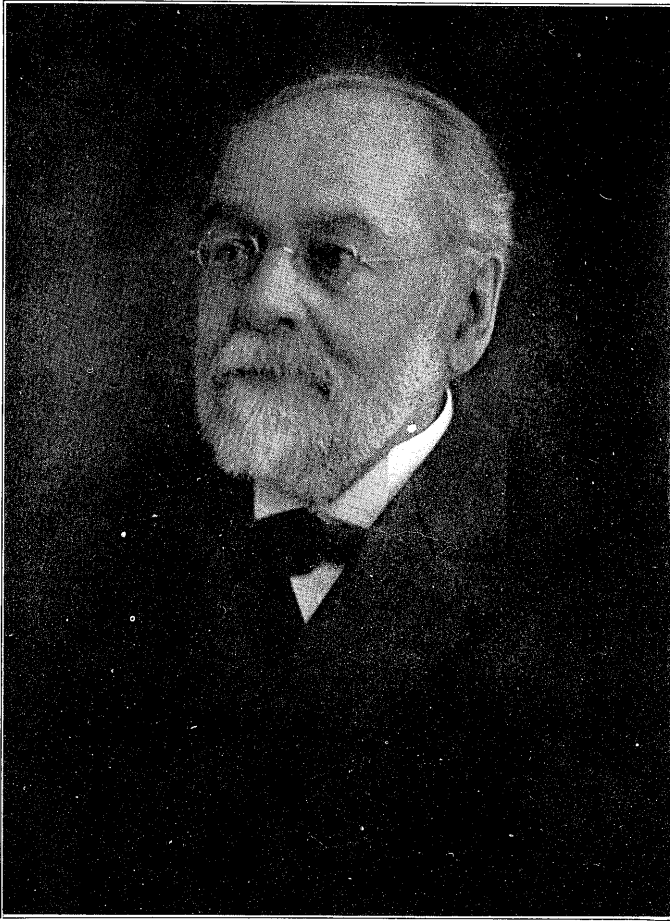
○蘇類ノ大家プロテルス博士略傳

荻 谷 定 吉

蘇類分類學ノ大家故プロテルス博士 (Dr. V. F. Brotherus) ノ傳記ガ氏ノ令息ナルゲオルグ氏ヨリ届キマシタノデ茲ニ紹介致シマス、プロテルス博士ハ一度モ我國ヘハ來ナカタガ我國ノ蘇類ヲ研究シタ人デアリ、又

藓類ノ大家プロテルス博士略傳

エングレル博士著自然分科大全 (Die Natürlichen Pflanzenfamilien) ニ執筆シタノデ世界的ニ有名ニナツテキ



教授プロテルス博士 (Professor V. F. BROTHERUS.)
(死去スル一年前ニ撮影シタモノ)

ル人デアル

博士ハ千八百四十九年十月廿八日フィンランドノ西南部ニアラクランドノ島ニ呱呱ノ聲ヲ揚ゲタノデアル彼ノ父ハ軍隊ノ經理部總監役ヲシテキタ、プロテルス氏ハ千八百六十六年ニ學校ニ入り千八百七十年ニ文學士トナツテ世ニ出デ千八百八十四年ニハヘルシングフホルスノ大學デ哲學ノ教師(教授デハナカッタ)トナッタ、氏ハ同大學奉職中植物學ノリンドベルグ(L. O. LINDBERG)教授ノ指導ニヨツテ藓類ノ研究

ヲシテキタ、彼ハ後檢定試験ニ合格シ千八百七十八年ヘルシングフォルスノ公立學校デ數學ト自然科學トヲ教ヘル様ニナリ四十年間モ此ノ職ニアツタガ蘚類ノ研究ハ家庭ニテ行ヒ決シテ公職ヲ怠ル様ナコトハシナカッタ、千八百七十七年ニハコーカサス地方ニ採集旅行ヲ行ヒ其ノ結果ヲ千八百八十四年ニ「コーカサスニ於ケル蘚類ノ分布ニ關スル研究」(Etudes sur la distribution des mousses on Caucase)ト題シテ發表シタ、彼ノ蘚類ニ關スル論文トシテハ此ガ最初デアル、千八百九十六年ニハ中央アジアニ長期ノ旅行ヲナシ屢々危險ニ瀕シタガ熱心ニシテ忍耐力ノ強イ彼ハ毫モ屈セズ多數ノ珍ラシキ標本ヲ携ヘテ歸ッタ

千八百九十九年彼ハ日本蘚類ヲ研究シ雜誌 Hedwigia, XXXVIII. (P. 204-247) ニテ「日本蘚類ノ新論評」(Neue Beiträge zur moosflora Japan.)ト題シ百八十種ヲ記載シテキル

千九百年ニハ Warburg's Monsumia, I. ガ出版セラレタガ此ノ中ニモ日本産ノ蘚類ガ發表シテアル

彼ハエングレル著自然分科大全 (Die natürlichen Pflanzenfamilien.) ノ蘚類 (Bryales) ノ部ヲ擔任シ八ケ年ノ間苦戰奮闘ヲ續ケ千九百一年漸ク千頁ニ近キ大冊ヲ完成シ獨逸ノエングレル氏ノ手ニヨリ出版サレタ

彼ハ四十年間、教員生活ヲ續ケテ居ッタガ千九百十七年(六十七歲)其職ヲ辭シ家ニ引キ籠ツテ専心蘚類ノ研究ニ没頭シタ

彼ハ千九百廿三年フィンランド政府ノ補助ニヨリ Die Laubmoose Fennoskandias. ナル書物ヲ出版シタ、此ノ書物ノ中ニモ日本蘚類ト共通種ガ多數記載サレテキルノデ我邦蘚類ノ研究ニハ是非必要ナ書物デアル(價ハ三十五 R.M.)

彼ハ自然分科大全ニ收録セル彼ノ蘚類篇ノ増補改訂ヲ企テ案外早ク二ケ年デ完成シ千九百二十五年間ニ改版サレタ、本篇ハ彼ガ十年間、粉骨碎心シテ書イタモノダケアツテ實ニ立派ナ大冊トナツテ居ル

此ノ書物ノ中ニハ日本産ノ蘚類モ澤山書カレテキテ蘚類研究者ハ是非備フベキ良書デアル、彼ハ此ノ外尙シベ

リア、ヒマラヤ、東印度、フィリッピン、ジャバ、オーストラリア、アフリカ、ブラジル、アルゼンチン、智利、エクアドル等ノ藓類モ研究發表シテキルガ、茲ニハ省略スル
彼ノ所藏標本ハ十一萬種アルガ、ソノ中一萬五千種ハ彼自身ガ集メタモノデアル、個人的ノモノトシテハ最大ノモノデアロウ

此ノ澤山ノ標品ト貴重ナ藏書トハ全部千九百二十四年フィンランド政府ニ買取ラレテ今ハヘルシングフォルスノ大學ニ於ケル植物學ノ博物館ニ保存サレテキル、又彼ガ外國ノ學者ト文通シタ通信文ハ約五百通モアルガ今ハフィンランドノ大學ノ圖書館ニ祕藏サレテキル

彼ノ偉大ナル功勞ハ認メラレ千九百廿一年フィンランド政府ヨリ Professor ナル尊號ヲ贈ラレタ、彼ハフィンランドノ Locetas pro Founa et Flora Fennica ノ名譽會員デアッタ、尙更ニヘルシングフォルスニ在ル科學學士院、セントピータスブルグニ在ル帝國科學學會、オクロノ王立科學學會、獨逸ノ Deutsche Botanisch Gesellschaft. ロンドンノ Linnean Society. ニューヨークノ Sullivant Moss Society. 等ノ會員トナツテキタ
獨逸ボン大學ハ彼ノ功勞ノ偉大ナルヲ認メ千九百二十七年ニ Doctor honoris cause. ナル尊稱ヲ贈ッタ

後彼ハ度々日本産藓類ヲ研究シ千九百廿八年オランダ出版ノ藓苔年鑑 (Annales Bryologici, vol. I.) ニ日本ノ新ラシキ藓類ト題シ新種廿五種、新變種二種都合廿七種ヲ新シク發表シタ、此レガ恐ラク彼ガ日本産藓類ヲ發表シタ最後デアッタデアロウ、此ノ年鑑中ニハ尙プロテルス博士ノ書イタ Contribution à la flore bryologique du Cachemire. ナル論文モ載セラレテキル、彼ハ本年(千九百廿九年)二月五日、家族ノ手厚イ看護モ藥石モソノ効ナクヘルシングフォルスノ自宅ニ於テ他界ノ人トナッタ

ひろうどこけ屬 (Brothera, C. Müll.) ナル屬名ハ故プロテルス氏ヲ記念スル爲ニ名ケラレタ屬名デアル
前ノト重複スルガ今次ギニ日本産藓類ノ發表サレテキルモノヲ列舉シテ見ヤウ(但シ小生ノ氣付カヌモノモ多

々アラウト思フ)

1. Hedwiga, XXXVIII. (Neue Beiträge zur moosflora Japan.) (1899)
2. Warburg's Monunia, I. (1900)
3. Bryales (Die Natürlichen Pflanzenfamilien.) (1901-1902)
4. 同右改訂版 (1925)
5. Musci Novi Japonici. (Overs. Fins. Vetensk.-Soc. Forland.)
6. Musci Novi Japonici. (Annales Bryologici, vol. I.) (1928)

(恩師誕生ノ日記ス、在相州平塚)

○はぎノ葉ノ形

久 内 清 孝

はぎノ葉ハ三小葉デアルコトハ當然ノコトデアツテコレハ正規ノ型デアルガ時ニハ次圖ノ如キコトモアル、コノ圖ハ徳川生物學研究所ノ靱山泰一君カラ惠與サレタモノデミヤぎのはぎニ出來タモノデアルトノコトデアルガ明カニ三小葉デアルベキモノニ三小葉以上ノ葉ガ出現シテ居ル

元來三小葉デアルベキはぎノ葉ノ起原ハドノ様ニモ説明出來ルニシテモ奇數羽狀複葉ノ最モ簡單ナモノデアルコトハ考ヘ得ルコト、思ハレル、マタ考ヘ様ニヨリテハはうちはまめやうまごやしやしやぢくさうニ於ケル掌狀複葉ト關係ノアル様ニモ思ハレル然シ其何レト最深イ關係ヲ有スルカハ之ヲ斷定スルコトハ容易ナコトデナク最モ論理的ナ説ヲ以テ正説トシテ満足スルヨリ仕方ガナイ

若シ掌狀、奇數羽狀兩復葉ノ出現ノ後先^{アトサキ}ノ如キニ至リテハ我々トシテハ杳トシテ需メ難イ問題デアルガしろつ